

2025年度 参戦報告書



MI-TECH
Racing

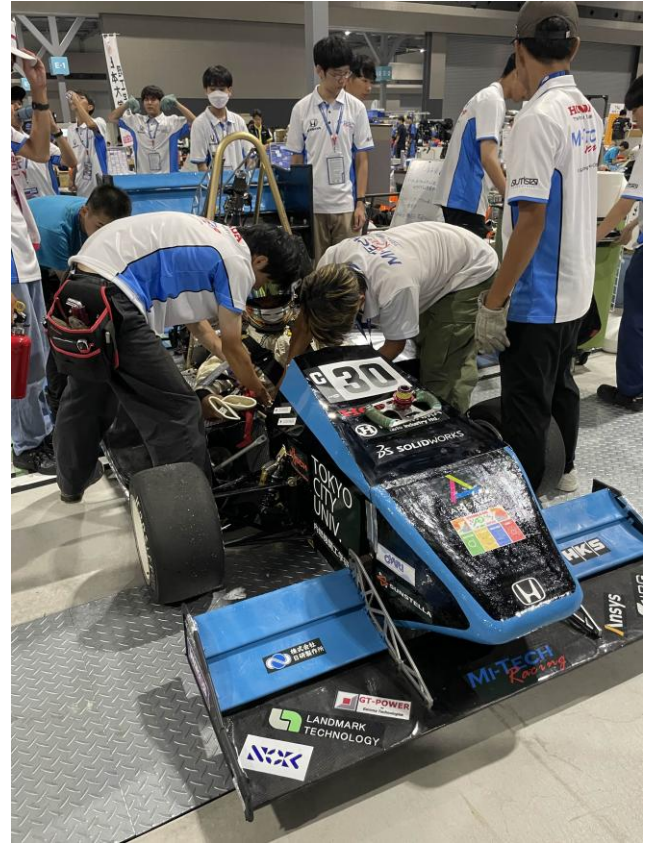
目次

- 1 : リーダー挨拶
- 2 : 大会概要
- 3 : 大会結果
 - 3-1 動的審査
 - 3-2 静的審査
- 4 : M2025車両について
- 5 : プロジェクトメンバー
- 6 : 1年間の歩み
- 7 : ギャラリー
- 8 : 大会を終えて
- 9 : ご協力頂いたスポンサーの皆様
- 10 : お問い合わせ

1. リーダー挨拶

日頃よりMi-Tech Racingをご支援いただきありがとうございます。学生フォーミュラ日本大会2025の参戦結果をご報告させていただきます。今年度はエンジンのトラブルにより規定タイムを上回れず、エンデュランス走行中にリタイアという、大変悔いの残る結果となりました。多くの走行会に参加でき、走行距離もコロナ禍以降では一番多かった一方で、チームの運営や車両のセッティングの詰めの甘さが招いた結果だと痛感しております。

今年度の反省を活かし、来年度以降もより良いチームと車両づくりに努めてまいります。



今年度、このような結果になってしまいましたが、スポンサーの皆様、OB,OGの皆様、学校関係者の皆様、大会関係者の皆様から多大なるご支援とご声援を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

来年度はチームとしての基盤を見直し、個人の力量に左右されないチーム作りをしていく所存です。更なる飛躍を目指し活動してまいります。

今後ともMi-Tech Racingを何卒よろしくお願い申し上げます。

M2025 プロジェクトリーダー
波田野 祥大



2. 大会概要

学生フォーミュラ日本大会 2025

ーものづくり・デザインコンペティションー

主催：公益社団法人 自動車技術会

会場：Aichi Sky Expo (愛知県国際展示場・愛知県)

開催期間：2025年9月8日～9月13日



3. 大会結果

総合 得点： 213.23 / 1000点
順位： 36 位 / 58 チーム

	競技	得点(pt)		順位(位)	昨年(位)	備考
動的審査	Acceleration	4.50	/100	40(タイ)	-	
	Skidpad	3.50	/75	37(タイ)	-	
	Autocross	84.84	/125	30	36	
	Endurance	7.00	/275	42(タイ)	38	リタイア
	Efficiency	-	/100	-	-	未計測
静的審査	Presentation	58.33	/75	14	28	
	Design	55.00	/150	29	32	
	Cost&Manufacturing	10.06	/100	48	14	
総合(pt)		213.23	/1000	36	37	

※
昨年度より点数或いは順位について、
UP⇒赤
DOWN⇒青
で表記しています。

今年度は「全種目完走」を目標に活動してまいりました。その実現に向けて、「走行距離の増加」や「車検の早期通過」を重点課題として取り組んでまいりました。しかし、シェイクダウンの遅れや試走会でのトラブル多発により、当初想定していたほどの走行距離を稼ぐことはできませんでしたが、それ以上に多くの成果を残すことができました。



特に、車検では昨年度に比べて大幅に指摘項目を減らすことができ、早期通過を達成できました。また、2019年以降出走できていなかったアクセラレーションおよびスキッドパッドへの出走を果たし、コロナ禍以降で初めて全種目に出走することができました。最終種目のエンデュランスでは惜しくもリタイアとなってしまいましたが、Mi-Tech Racingとして確実に成長を遂げていると感じております。

3-1. 動的審査

今年度はすべての動的種目に出走することができました。

機械車検では指摘項目を最小限に抑え、翌日のクイック車検で再車検を受け、無事に合格をいただきました。機械車検合格後はチルト試験・騒音試験を順調に突破しましたが、ブレーキ試験ではやや時間を要しました。クラッチの調整を行い、午前中のうちにすべて車検を完了することができました。

車検合格後は、午後の枠の初めにアクセラレーション、スキッドパッド、オートクロスの順で出走しました。

まずアクセラレーションでは7.778s (ICV: 40位タイ) を記録しました。ブレーキテスト直後の出走で、走行中にクラッチの不具合が発生しシフトアップが上手くいかず、思うような走行ができませんでした。

続くスキッドパッドでは6.697s (ICV: 37位タイ) を記録しました。アクセラレーションから続けて出走したため、こちらでもクラッチの不調が残り、車両本来の旋回性能を発揮することができませんでした。8月の試走会で好タイムを記録していただけに悔しい結果となりました。

その後、オートクロスに向けてクラッチの不具合を修正し、暖気エリアで最終調整を行っていた際に、電装系トラブルが発生しました。スロットルセンサーの異常が確認され、対応に追われましたが、工学院レーシングチーム(KRT)様よりECUをお借りし、応急処置を施したうえで出走することができました。

オートクロスでは72.425s (ICV: 30位) を記録しました。万全の状態ではなかったものの、エースドライバーの走りにより、エンデュランスへの出走権を獲得することができました。

翌日のエンデュランスでは7週目でリタイア (ICV: 37位) という結果になりました。事前の走行会での燃費計算を踏まえ、燃費を抑えた走行を行いましたが、前日のトラブルが完全に解消されず、思うようにペースを上げることができませんでした。その結果、規定タイムを上回ることができずリタイアとなりました。

3-2. 静的審査

● Presentation 順位：14位 / 58チーム (ICV)

今年度は順位、点数ともに高い結果となりました。合同発表会でのフィードバックやOBの方々への模擬プレゼンの実施回数増加により、本番想定の対策を入念に行うことができました。ターゲットやコンセプトの妥当性は評価されましたが、市場分析から見出す提供価値や事業計画の実現方法の詳細についての検討が不十分でした。これらを踏まえ、次年度はより高順位、高得点を獲得できるよう尽力してまいります。

プレゼン 明東 奏吾

● Design 順位：29位 / 51チーム (ICV)

今年度は前年度に比べて順位・得点共に低い結果となりました。昨年度の反省を踏まえ、PL/Oの検討をより慎重に行い、各パートでのコンセプトや設計方針のすり合わせを徹底しました。また、昨年度は車両製作と資料作成を同時期に進めたことで両立が難しくなっていたため、今年度はスケジュールの見直しを行いました。しかし、車両製作の遅れにより、結果的に製作期間とデザイン資料作成期間が重なってしまいました。そのため製作を優先した結果、資料作製に十分な時間を確保できず、フォーマット変更への対応にも時間を要したことで、資料のクオリティを十分に高めることができませんでした。これらの経験を踏まえ、来年度は計画的かつ余裕を持ったスケジュール管理のもと資料作成を進めていきたいと考えています。

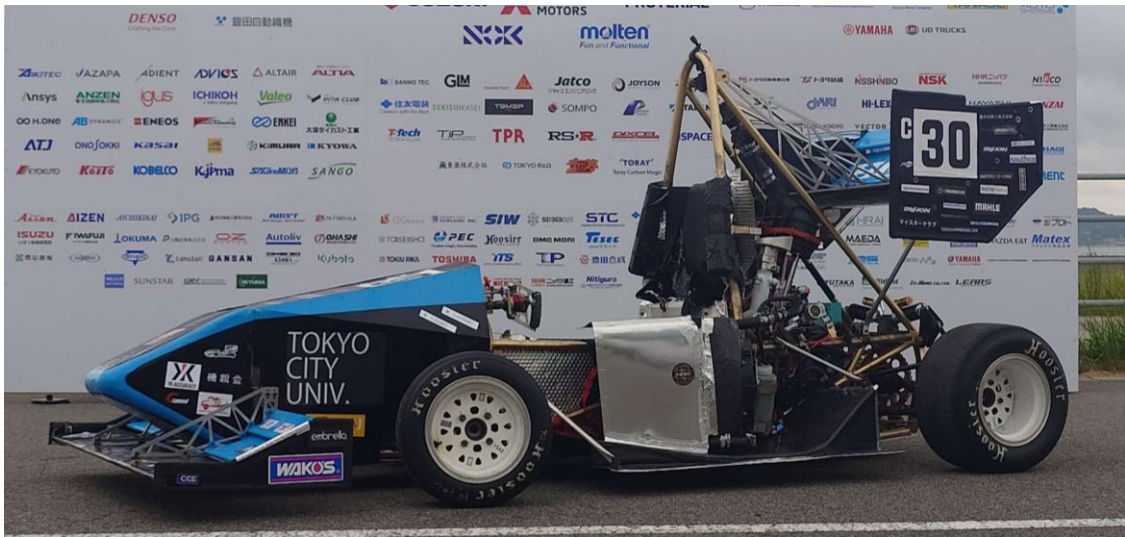
デザイン 関 祥太郎

● Cost & Manufacturing 順位：48位 / 56チーム (ICV)

今年度は、前年度に比べて順位・得点ともに低い結果となりました。デザイン審査と同様に、資料作成に十分な時間を確保できず、資料のクオリティを十分に高めることができませんでした。例年、安定して高い成績を収めていただだけに、スケジュール管理の甘さが悔やまれる結果となりました。この経験を踏まえ、計画性を重視したスケジュール管理を徹底し、上位入賞を目指してまいります。

コスト 関 祥太郎

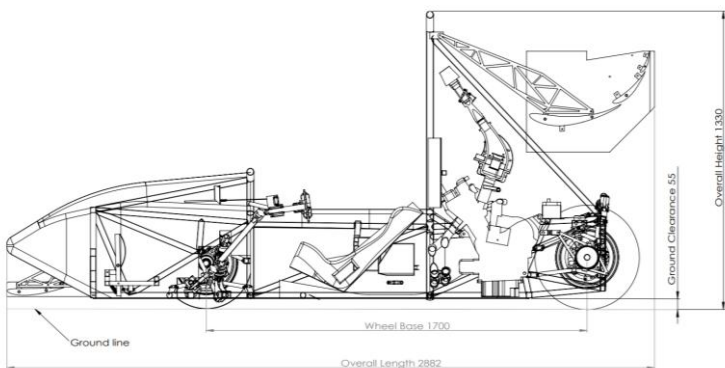
4. M2025車両について



チーム目標である「全種目完走」を達成するために、今年度は「信頼性の獲得」を車両コンセプトとして開発を行いました。抜本的な車両特性の変更は行わず、前年度車両で得られた旋回性能を継承しつつ信頼性の向上に重点を置いて開発を行いました。

昨年度発生した各種トラブルの原因を分析し、対策を講じることで再発防止に努めました。その結果、昨年度に比べて多くの試走会に参加でき、コロナ禍以降で最長の走行距離を達成することができました。また、マシンの戦闘力についても前年を大きく上回る水準に引き上げることができました。

M2025 Technical Spec



全長	2882 mm
全幅	1500 mm
全高	1330 mm
ホイールベース	1700 mm
トレッド幅	1290 mm
重量	260 kg
タイヤ	Hoosier Fr/16 Rr/18 (inch)
エンジン形式	HONDA PC40E
エンジン出力	779PS/13500rpm
トルク	54.3Nm/7800rpm
燃料タンク容量	6.5 L
特徴	カーボン製エアロデバイス 等長エキゾーストマニホールド ゴールドフレーム

5. プロジェクトメンバー

学年	名前	担当
B3	関 祥太郎	エアロ班リーダー 冷却
B3	佐々木 隆成	エンジン班リーダー 排気
B3	平田 大悟	フレーム
B3	伊林 大汰	サスペンション ドライバー
B3	松下 陽翔	吸気
B3	木下 斐唯稜	電装, 燃料
B3	中野 恵太	エアロ
B3	廣瀬 凉太	製作
B3	石塚 大暉	製作
B3	河原 巧弥	製作
B2	波田野 祥大	PL 足回り ドライバー
B2	磯野 隼士	電装
B2	田中 翔太郎	サスペンション
B2	田中 佑翼	燃料, 電装 ドライバー
B2	平原 勇利	ステアリング
B2	松野 稜	ディファレンシャル ドライブシャフト
B2	尾山 美桜	排気

学年	名前	担当
B2	吉田 侑弥	エアロ
B2	吉田 健人	排気
B2	高橋 利祈	吸気
B2	井垣 陸斗	サスペンション
B1	前川 颯	サスペンション
B1	増田 拓仁	電装
B1	笈川 悠	フレーム
B1	田谷 正樹	ディファレンシャル ドライブシャフト
B1	関口 滉大	サスペンション
B1	熊井 新太	エアロ
B1	織裳 真矢	吸気
B1	井上 律	エアロ
B1	橋本 遥大	電装
B1	北村 健	排気
B1	熊谷 佳明	エルゴノミクス
B1	中村 拓人	エアロ
B1	佐々木 佑太	燃料

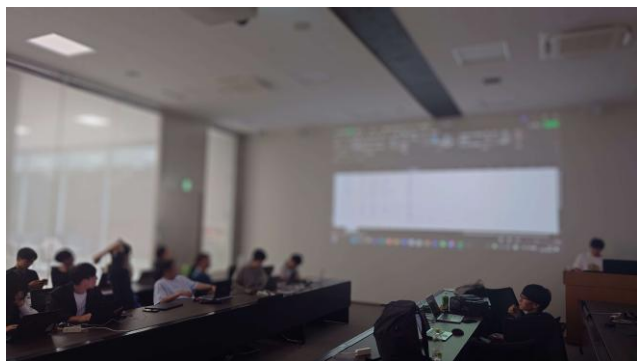
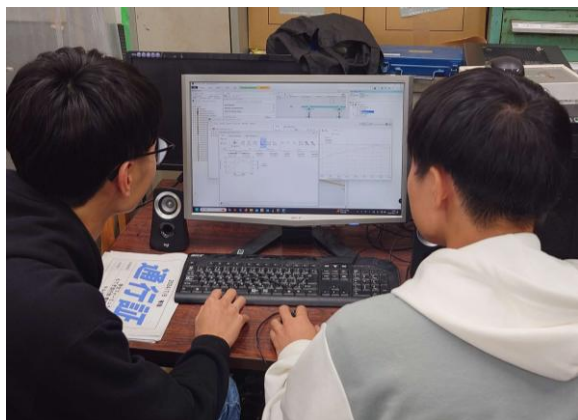
6. 1年間の歩み

10
月

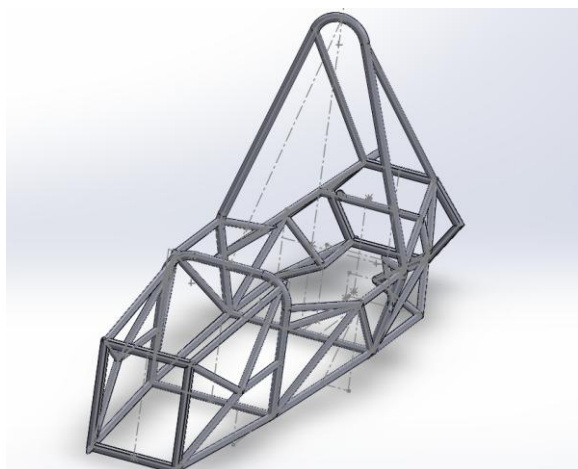
- ・ 新年度への引継ぎ
- ・ M2025始動
- ・ 前年度車両評価
- ・ 各種講習会参加



- ・ 大会目標、車両コンセプト決定
- ・ 設計開始

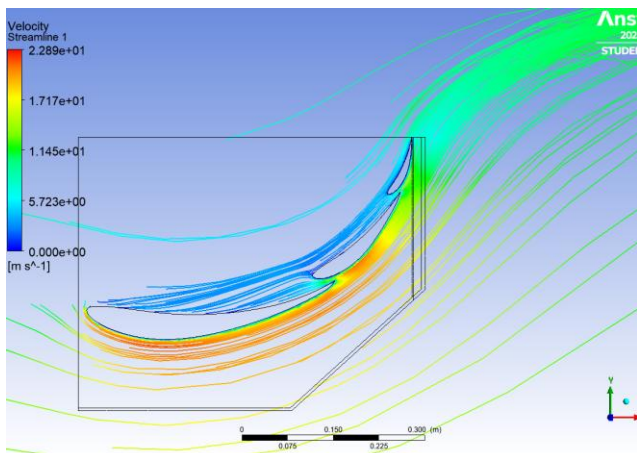


11
月



12
月

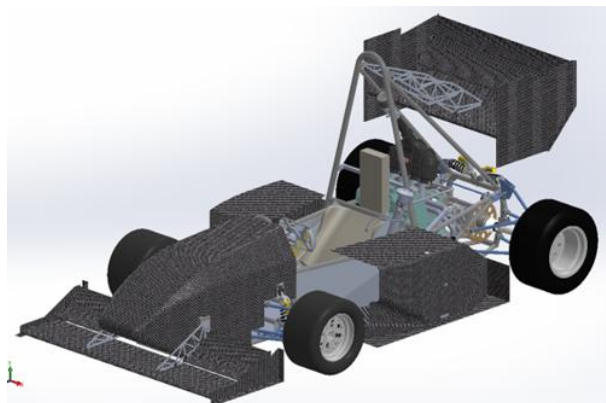
- ・ デザインレビュー実施



6. 1年間の歩み

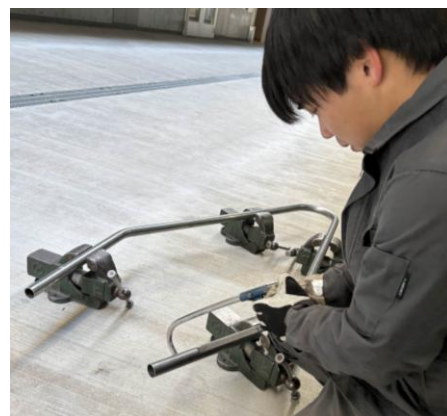
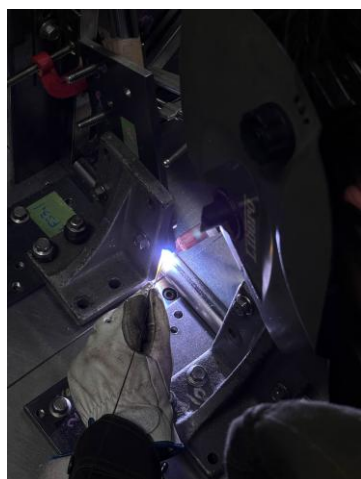
1
月

- ・ 設計完了
- ・ 第23回大会エントリー完了



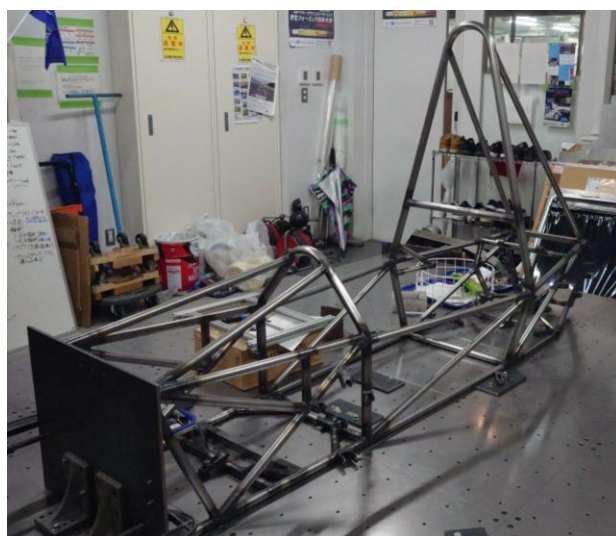
2
月

- ・ フレーム製作開始
- ・ 車両製作開始



3
月

- ・ フレーム完成
- ・ SES初回提出完了



6. 1年間の歩み

4
月

- ・ 新入生勧誘
- ・ 車両製作



5
月

- ・ 車両接地
- ・ 車両初回シェイクダウン
- ・ 静的審査資料作成



6
月

- ・ 静的審査資料提出
- ・ 走行会初参加



6. 1年間の歩み

7
月



- ・シェイクダウン成功
- ・走行会参加
- ・エアロデバイス取付



8
月

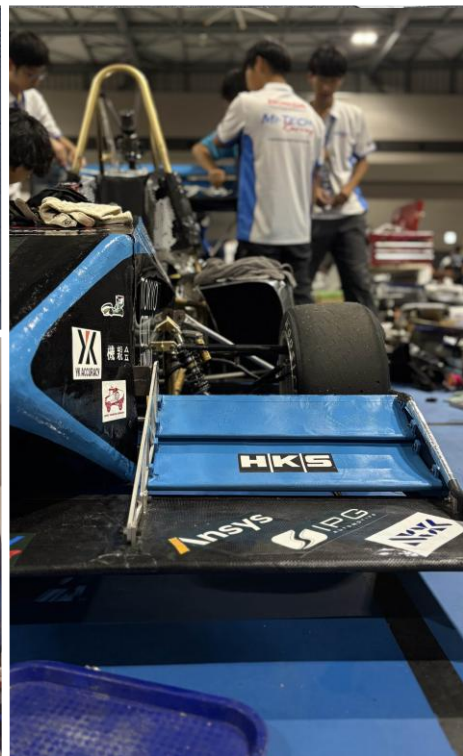


- ・学生フォーミュラ日本大会2025参戦

9
月

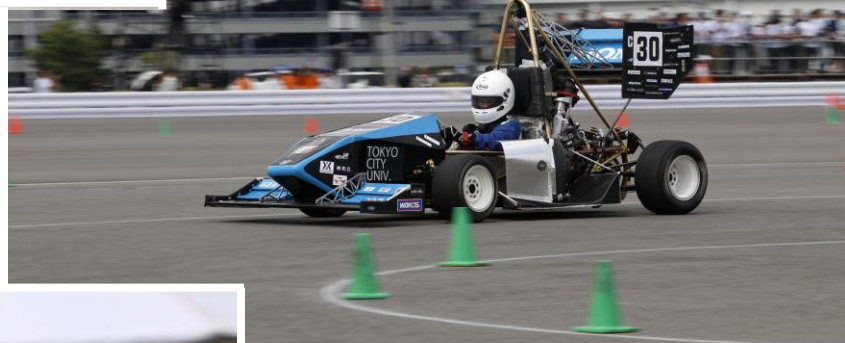


7. ギャラリー



MI-TECH
Racing

7. ギャラリー



MI-TECH
Racing

8. 大会を終えて

2025年度大会を終え、昨年度よりも戦闘力の高い車両を設計・製作することができ、また多くの走行会に参加することができました。しかしながら、マネジメントの不備により、静的審査やチーム運営において課題を残す結果となり、予定していた走行距離を達成することはできませんでした。その影響もあり大会成績は昨年度より下がることとなりましたが、今年度明らかになった課題に真摯に向き合い、一つ一つ確実に改善していくことで、「強い」Mi-Tech Racingを必ず取り戻していきたいと考えております。

来年度は、今年度発生したトラブルを確実に解消し、より戦闘力の高い車両の設計・製作に取り組むとともに、チーム一丸となって全種目完走を達成できるよう取り組んでいきます。

最後になりますが、今年度も私たちの活動を支えてくださったスポンサーの皆様、多くのご助力やご助言をいただいたOB・OGの皆様、活動場所の提供や広報面でのご協力をいただいた学校関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

Mi-Tech Racingはこれからも目標達成に向けて精進してまいりますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



9. ご協力頂いたスポンサーの皆様

今年度は以下の皆様に厚いご支援をいただきました。
誠にありがとうございました。(順不同、敬称、法人格省略)

本田技研工業	IDAJ	IPG Automotive
iFulSoft	アウトィスタ	Astemo
アネブル	有沢製作所	アンシス・ジャパン
イグス	伊藤精密熔接工業所	ウィングス
エッチ・ケー・エス	エヌ・エム・ビー販売	NOK
エフ・シー・シー	オートリーダーズ	京葉ベンド
協和工業	共和電業	ジュニアモーターパーク クイック羽生
サイバネットシステム	サウスコ・ジャパン	サンスター
三陽	重松製作所	信濃工業
城南キー	スズキ	住友電装
3DConnexion	積水化成品工業	セメダイン
ソケットセンター	ソリッドワークス・ ジャパン	ZONe Student Booster
タシロ	デュポン・スタイロ	東京アールアンドデー
東京プラント	東洋電業	トミタ

9. ご協力頂いたスポンサーの皆様

今年度は以下の皆様に厚いご支援をいただきました。
誠にありがとうございました。(順不同、敬称、法人格省略)

中村鉄工	日研製作所	日産自動車
日本軽金属	日本発条	日本フレックス工業
日本ブッシュ	パーソルクロス テクノロジー	羽生田鉄工所
浜名部品工業	平山自動車工業	深井製作所
富士精密	ホンダテクノフォート	マーレジャパン
マイスタークラブ	丸山ラジエーター 工作所	ミノルインター ナショナル
ランドマーク テクノロジー	YKアキュラシー	ワイズトレーディング
和光ケミカル	東京都市大学機親会	東京都市大学 内燃機関工学研究室

10. お問い合わせ

東京都市大学 学生フォーミュラチーム
Mi-Tech Racing (マイテックレーシング)

<顧問・FA>

理工学部 機械工学科 内燃機関工学研究室

三原雄司 教授

及川昌訓 准教授

<2025年度チームリーダー>

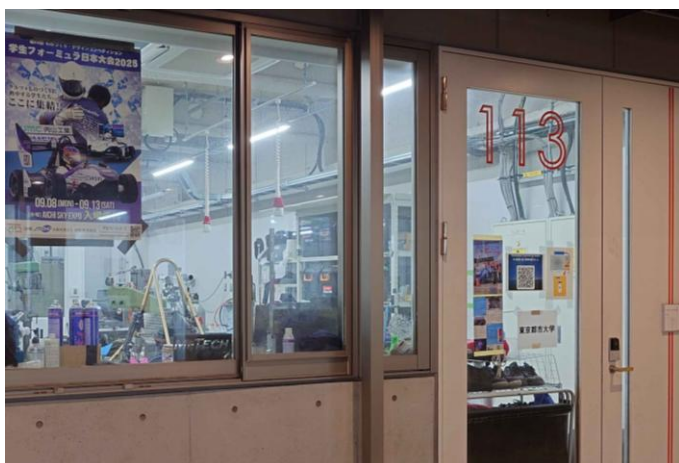
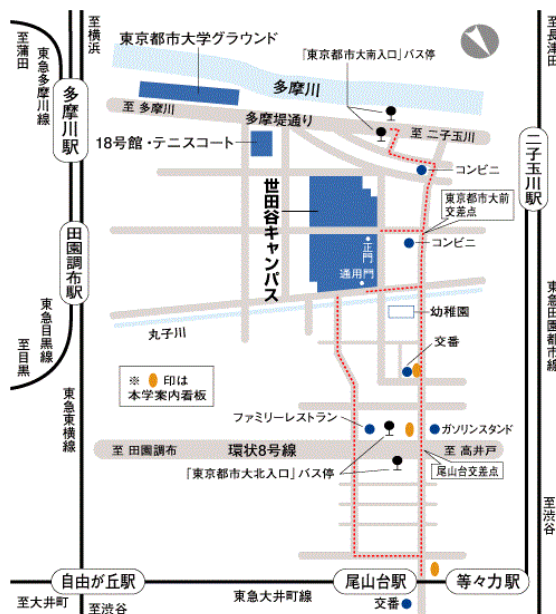
東京都市大学 機械工学科

学部2年 波田野祥大

メールアドレス：g2411082@tcu.ac.jp

所在地：〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1丁目28-1

東京都市大学 世田谷キャンパス 10号館1階 創成工房(113)



MI-TECH
Racing

私たちMi-Tech Racingは、東京都市大学
世田谷キャンパス 創成工房にて活動しております。
お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



HP : <https://www.mitech-racing.com>

e-mail : mitechofficial@gmail.com

Twitter : <https://twitter.com/MiTechRacing>

Instagram : <https://www.instagram.com/mitechracing/>